

□聖霊の第四の働き 満たし

■アウトライン

1. 聖霊の満たしとは、どういう意味か？
2. 聖霊の満たしを受けるための何か特別な方法、具体的な方法を、聖書は記しているのか？
3. 聖霊の満たしを受けることは、信者にとっては、神の命令である。
4. 聖霊の満たし と 「神との交わり」 との関係
5. 聖霊の満たし と 「聖霊に従うこと」 との関係
6. 聖霊の満たしの結果

-
1. 聖霊の満たしとは、どういう意味か？

それは、信者が聖霊によってコントロールされる状態を指す。信者が聖霊の導きを信頼し、明け渡し、委ねることが前提である。

エペソ 5:18 *また、ぶどう酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。*

- (1) この箇所では、聖霊に満たされることと、酒に酔うこととが対比されている。人が自分の限度を超えてアルコールを摂取すると、その人の内側にアルコールが満ちてしまい、その人はアルコールにコントロールされてしまう。酔うとは、アルコールに支配される状態である。
- (2) 同様に、聖霊に満たされるとは、信者が聖霊によってコントロールされている状態を指す。ただし、聖霊は強制的、一方的に信者をコントロールすることはない。信者が聖霊の導きを信頼し、明け渡し、委ねることが前提である。そのとき、聖霊の満たしが信者の内側に働き、その信者は聖霊の支配を受ける。
- (3) 信者が聖霊の支配を受けていくと、信者は霊的に成長する。放蕩とは全く逆の方向である。聖霊が信者を支配するのは、信者を霊的に成長させるためである。

- (4) 「御霊に満たされなさい。」・・・ここには4つのポイントがある。
- ① 満たされなさい・・・これは命令形である。信者は聖霊の満たしを受けるように命じられている。
 - ② 満たされなさい・・・これは現在形の命令であり、ギリシア語の文法上、一度満たされたら終わり、というものではなく、継続的に繰り返して満たされるように命じている。信者は、霊的な生き方をする中で、何度でも満たしを受けるように、というのである。
 - ③ 満たされなさい・・・この命令は、受け身である。満たし、支配する主体は、信者ではなく、聖霊である。信者は、自分で何かをするのではなく、聖霊がなさることに委ねよ、と命じられている。
 - ④ 御霊に満たされる・・・「御霊に」とは、聖霊によってという意味でもあるし、聖霊をもってという意味でもある。
 1. 聖霊によって満たされる・・・信者を支配するお方は、聖霊である。
 2. 聖霊をもって満たされる・・・信者の中に満ちるお方は、聖霊である。

2. 聖霊の満たしを受けるための何か特別な方法、具体的な方法を、聖書は記しているのか？

それは、**ない**。

しかし、ヨハネ7:37~39とマタイ5:6、コロ3:16が、道を示している。

ヨハネ 7:37~39 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。「だれでも**渴いている**なら、わたしのもとに**来て飲みなさい**。**わたしを信じる者は**、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ下っていなかったのである。

(1) 37節

- ① 「**渴く**」・・・まず、渴いていなければならない。聖霊に満たされたい、聖霊の支配を受けたいと願うことである。
- ② 「**来て、飲む**」・・・聖霊の満たしを受けるときに、信者がなすべきことはこれである。イエスのもとに来て、イエスから水を受け取り飲む。

(2) 38節 「**わたしを信じる者は**」・・・イエスのもとに来て、イエスから水を受け取り飲むとは、イエスを信じる、ということである。

- ① この信仰は、3つのステップを進む。
 1. 第一段階・・・イエスを旧約聖書が預言していたメシアであると信頼する。
 2. 第二段階・・・メシアを信頼してメシアと共に人生の歩みを始める。
 3. 第三段階・・・メシアを信頼してメシアと共に歩み続ける。
- ② イエスを信じるとは、メシアを信頼し、メシアと共に歩むことである。そしてそのようにイエスを信じる者は、「**その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります**。」これが何を意味するか、39節で語られる。

(3) 39節 「**イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである**。」→38節の「生ける水の川が流れ出るようになる」とは、信者が聖霊を受け、聖霊に満たされるようになることを意味している。

マタイ 5:6 **義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるようになるからです。**

飢え渴く者は、満たされる。聖霊の満たしを受けたいと飢え渴いて願う者は、聖霊の満たしを受ける。

コロ 3:16 **キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。**

メシアと共に歩むとき、私たちが守るべき生活ルールは、【新約聖書の中のメシアの律法】と【旧約聖書の中の永遠の原則】である。
聖霊に満たされるためには、神のことばに従うことが必要である。

3. 聖霊の満たしを受けることは、信者にとっては、**神の命令**である。

エペソ 5:18 **御霊に満たされなさい。**

- (1) ギリシア語の文法上、これは命令形であり、信者にとって、神の命令である。
- (2) ギリシア語の文法上、これは現在形の命令形である。一回限りではなく、継続して繰り返し、聖霊の満たしを受けるように命じられている。信者は、過去において聖霊の満たしを受けた経験をもっているとしても、問題は、現在もそうなのか、という点である。
- (3) ギリシア語の文法上、これは受け身である。信者が一度メシアと共に歩み始めたなら、聖霊が働き出しておられる。その聖霊の働きに身をゆだねるように、命じられている。信者は、聖霊の権威と支配のもとにわが身を置き続けねばならない。

4. 聖霊の満たし と 「神との交わり」 との関係

(1) この二つのことは相関関係にあるが、同じものではない。

- ① 中心点が違う・・・神との交わりにおいては、罪をどう処理するかということが大切である。他方、聖霊の満たしにおいては、聖霊の支配に服しているかどうか、である。
- ② 聖霊の満たしを受けていなくても、神との交わりを持つことは可能
 1. もちろん、信者が罪の中で生活しているなら、神との交わりは不可能であり、そのような信者は聖霊に満たされているとは言えない、それは明らかである。
 2. しかし、聖霊の支配に服していない信者であっても、気づいた罪があれば、祈りの中でそれを言い表すなら、神はその罪を赦し、気づいていない罪も含めてすべての不義から信者をきよめてくださる。
 3. すると、神との交わりが回復され、神からの力が与えられる。

(2) 神との交わりを保っていく先に、聖霊の満たしがある

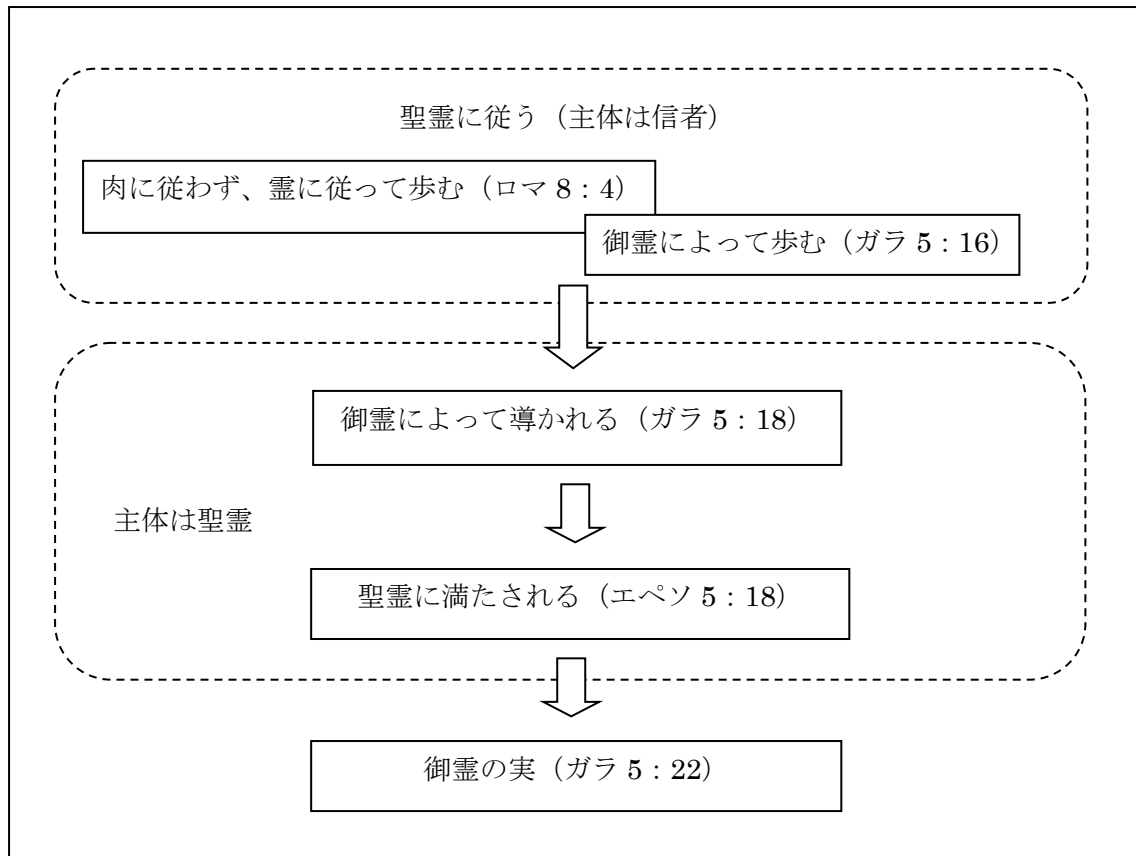
- ① 神との交わりを保つことで、神からの力が与えられる。その力をもって、信者は罪の性質に従わずに、新しい性質に従って歩むことができる。
- ② そのような歩みをする中で、聖霊に満たされたいと飢え渴くようになり、そう願うと聖霊の満たしを受ける。

5. 聖霊の満たし と 「聖霊に従うこと」 との関係

「聖霊の満たし」では、主体は聖霊である。聖霊が信者を支配する。
これに対して、「聖霊に従う」では、主体は信者である。信者が聖霊に従う。

順序としては、まず信者が聖霊に従うことから始まる。信者が自らの意志で、聖霊に従いたいと願い、祈りつつ日々の生活をしていくことである。聖書はそのような生き方について、二通りの表現をしている。一つは、「肉に従わず、霊に従って歩む」（ロマ8:4）、もう一つは、「御霊によって歩む」（ガラ5:16）である。

その先に、聖霊の満たしがある。この順序を図示すると、次のページの図のようになる。



- ① ロマ 8:4 「**肉に従わず、霊に従って歩む**」・・・肉は罪の性質、霊は、救われたときに受けた新しい性質を意味する。信者が、罪の性質に従わず、新しい性質に従うことを選択すること、それが、「霊に従って歩む」である。
- ② ガラ 5:16 「**御霊によって歩む**」・・・救われたときに**聖霊から受けた**新しい性質に従って、信者が歩むことを、「御霊によって歩む」と表現している。
- ③ よって、「**霊に従って歩む**」(ロマ 8:4) と、「**御霊によって歩む**」(ガラ 5:16) は同じである。そして、この二つは、聖霊の満たしを受ける前提である。
- ④ 新しい性質(霊)に従って歩んでいくと、次に、ガラ 5:18 「**御霊によって導かれている**」という段階に来る。ここからは、**主体は信者から聖霊になる**。
- ⑤ そしてその先に、エペソ 5:18 「**聖霊に満たされる**」という段階に入る。すなわち聖霊が信者を支配し、コントロールするという段階である。これが、聖霊の満たしである。**聖霊の満たしにおいて、主体は信者ではなく、聖霊である**。
- ⑥ 実を結ぶ・・・【**新しい性質(霊)に従って歩む**→**聖霊に導かれる**→**聖霊に満たされる**=**聖霊によって支配され、コントロールされる**】というプロセスを経て結ぶ実が、ガラ 5:22 の「**御霊の実**」である。

6. 聖霊の満たしの結果

(1) メシアに似た者とされる・・・ガラ 5:22 「**御霊の実**」

- ① 愛・・・神のみこころを行う。これは、信者のさまざまな種類の行動すべての出発点になる。
- ② 喜び・・・他の信者が真理のうちに歩むことを喜ぶ（ピリ 2:1~2、I テサ 2:19、III ヨハ 4)
- ③ 平安・・・神との正しい関係からもたらされる穏やかさ（ロマ 5:1、エペソ 2:17)
- ④ 寛容・・・性格と行動における落ち着き。忍耐や控えめな態度を含む
- ⑤ 親切・・・他の人のためになることを考える
- ⑥ 善意・・・他の人のためになることを実行する
- ⑦ 誠実・・・規則正しく生活し、神に仕える
- ⑧ 柔和・・・優しく、穏やかに、語り行動する
- ⑨ 自制・・・よく訓練されて熟練に達している、特にモラルの面で

(2) 奉仕、特に回復のわざ（ガラ 6:1)

(3) 礼拝と賛美（エペソ 5:19)

(4) 感謝（エペソ 5:20)